

東京・中部・近畿 化学部会（2010年9月度）合同見学会報告

日 時 : 2010年9月24日(金)
場 所 : 三菱化学株式会社 四日市事業所
テーマ : 三地区合同見学会

講演 事業所概要の説明

平田賢太郎 三菱化学株式会社 四日市事業所 環境管理室長
(中部支部化学会長)

三菱化学(株)は1934年設立の日本タール工業(株)が起源であり、変遷を経て現在は(株)三菱ケミカルホールディングス(MCHC)の完全子会社である。主な工場・事業所は、黒崎・四日市・直江津・水島・坂出・鹿島・筑波・名古屋・松山・小田原にあり、四日市事業所は工場に開発研究所を併設した主力事業所の一つである。

四日市事業所は3地区で構成し全体では35万m²ある。エチレンプラントを鹿島に集約した結果、現在の主要製品はアクリル酸、1,4-ブタンジオール、PTMG(ポリテトラメチレンエーテルグリコール)、シュガーエステル、PBT、PET等の樹脂関係、カーボンブラック、ケミカルトナー、リチウム電池用電解液等である。

四日市事業所の活動の大きな柱はMCHCグループのポリマー関連事業であるが、東海地域の主要産業である自動車や情報電子分野などの需要に応えるための技術開発を、製造部門と研究開発部門が一体となって力を注いでいる。本日、見学していただくケミストリープラザ四日市は、グループの基盤技術である合成・触媒・プロセス・複合化・成型加工・分析などの技術を紹介する資料を示して理解を深めながら、お客様と直接対話を行うことにより新しい製品を効率よく開発することを目指した設備である。

また、企業として社会と環境への責任を果たすため、自主活動であるRC活動に力を入れている。RCとは、『化学物質を取り扱う事業者が、化学製品の全ライフサイクルにわたって「環境・安全・健康」を確保し、社会とのコミュニケーションを図るなどの責任を果たしながら、化学による未来を創造する』ことを意味している。

(文責 藤橋雅尚)